科目名	病態治療論Ⅱ	講師	非常勤講師
履修時期	1年　後期	単位数	1
		時間	30

＜科目設定理由＞

病態とは、疾患の原因である病的な状態あるいはその発生機序をいう。一般には「病気」」と表現され、人体の正常性が器質的または機能的に破綻した状態とされる。これに対し治療とは、人体にもともと備わっている治癒力を助けるものであり、患者の病態を改善し健康を回復するための医師による行為を指す。

看護者が対象の自然治癒力を引き出し、回復過程を支援するための働きかけを行うには、患者に出現している症状や徴候を的確かつ詳細に観察し、疾患や治療が患者の身体的・精神的・社会的側面におよぼす影響を捉えなくてはならない。よって患者に合った看護を実践するためには病態と治療についての理解は不可欠といえる。そこで、疾患の種類を組織・器官の系統別に分け、病態・検査・治療に関する知識の獲得をねらいとして科目を設定する。

ここでは『病態治療学Ⅱ』として、消化器疾患/代謝・内分泌疾患の病態・検査・治療について理解する。

学習目標	①消化器疾患の病態生理・検査・処置・治療の概要と、それらが生体に及ぼす影響が理解できる。 ②代謝・内分泌疾患の病態生理・検査・処置・治療の概要と、それらが生体に及ぼす影響が理解できる。
学習内容	**【消化器】**…14時間 1．主要症状と病態生理 ①嚥下困難 ②悪心・嘔気・嘔吐 ③腹痛 ④吐血・下血 ⑤下痢 ⑥便秘 ⑦腹水・腹部膨満 ⑧黄疸 ⑨意識障害 2．主たる疾患の病態生理・症状・検査・処置・治療 ①悪性腫瘍（食道がん・胃がん・肝がん・膵臓がん・胆嚢がん・大腸がん） ②肝炎 ③アルコール性肝障害 ④肝硬変（門脈圧亢進症） ⑤肝不全 ⑥イレウス **【代謝・内分泌】**…14時間 1．主要症状と病態生理 ①高血糖症状 ②多尿 ③意識障害（糖尿病性昏睡） ④甲状腺腫 ⑤頻脈 ⑥眼球突出 ⑦易疲労感・倦怠感 ⑧発熱 2．主たる疾患の病態生理・症状・検査・処置・治療 ①糖尿病

	②高脂血症 ③甲状腺疾患（機能亢進症・機能低下症） ④クッシング病 ⑤アジソン病 ⑥高尿酸血症 終講試験
授業形態	講義・グループワーク
評価方法および評価の観点	筆記試験
テキスト	系統看護学講座　成人看護学⑤「消化器」、成人看護学⑥「内分泌・代謝」医学書院
参考資料・図書	授業資料がある場合は、適宜印刷して配布する。
履修上の留意事項・受講条件	複数の講師で担当するので出席時間等は自己管理し欠席等のないように授業に臨むこと。 特に解剖生理学の知識と繋げて理解するために、予習・復習を欠かさず行うこと。